学会投稿原稿テンプレート

著者1\*、著者2\*、著者3\*\*

\* 著者1,2の所属

\*\* 著者3の所属

Submission Paper Template

Author1\*, Author2\*, Author3\*\*

\* Affiliation of Author 1 and 2

\*\* Affiliation of Author 3

\* e-mail-address@email.ac.jp

概要：このテンプレートを用いて、学会の投稿原稿の形式を揃えることができる。また、記述形式についても説明があるので、著者はそれらを参考に執筆していただきたい。

Abstract: This paper template provides you the format and way of writing at the Transactions. Authors are recommended to use this template to prepare their papers to be submitted.

キーワード： テンプレート、論文誌、執筆要領

Keywords: Paper submission, template, author guideline

# はじめに

本学会は、教育・学習・訓練分野における方法論・効果測定・質保証の研究開発・情報化支援・ビジネス創出を対象とし、広く社会に対してこれらの成果の情報提供や普及啓発を行う。このため本学会誌は、上記およびこれらに関連する理論や方法論の研究結果や実践報告などを広く読者に提示し、会員の意見発表や、意見・情報交換の場を提供することを目的とする。

本学会が公開する原稿は、原著論文、実践論文、寄稿原稿の３種類がある。原著論文は、研究成果を完全な形で開示したものであり、以下の基準を満たす必要がある。

* 関連性：主張や内容が学会の目的と合致していること
* 独自性：多くの先行研究・関連研究の調査結果を開示し、またそれらと著者の主張を関連づけて述べながら、主張の独自性を裏付けていること
* 有効性：対照実験やエスノグラフィーといったエビデンスを用いて主張の有効性を科学的に検証し、第三者が検証可能な形でその詳細を開示していること
* 可読性：パラグラフ・ライティング等の手法を用い、上記の主張を読者が了解するために記述内容が十分整理して書かれていること。また、初出の用語は定義してから用いるなど、内容が十分わかりやすく書かれていること
* 記述形式の準拠：見出し、句読点、文献参照などが以下に示す形式に準拠しており、かつ一貫していること
* 行動規範への準拠：文章やメディアの剽窃、実験データの改ざん、二重投稿、個人情報の不適切な取り扱いなど、研究者の行動規範に反した内容を含まないこと

　この原著論文以外に、学会誌では実践論文と寄稿も公開する。実践論文は、学会の目的を踏まえた実践結果を開示するもので、実施を速やかに公開する速報性を重視する。有効性、可読性、記述形式の整合性、行動規範への準拠については原著論文と同様の基準を満たすものとする。寄稿は研究結果の開示ではなく、学会員への情報提供を目的とするもので、例えば以下のものを含む。可読性、記述形式の整合性、行動規範への準拠については原著論文と同様の水準が要求される。

* 国際会議報告
* 博士論文紹介
* 研究プロジェクト紹介
* 解説

# 論文の構成要素と記述形式

## 構成要素

原稿は、以下の要素を含むものとする。

* 表題：日英両文で記すこと
* 著者名と所属：日英両文で記すこと
* 連絡先：代表著者のeメールアドレスを記すこと
* 概要： 200字以内の日本語と150ワード以内の英語を併記すること
* キーワード：日英両文で５つ程度を記すこと
* 本文：日本語または英語で記述すること。記述形式は後述する
* 参考文献：記述形式は後述する
* 付録：必要に応じて記すこと

## 記述形式

* 原稿サイズ：A4縦書きで、本文と参考文献のみ２段組とする。マージンは上下左右とも20mm、１ページ当たり４０行、２段組では１段あたり２５文字とする
* フォント：概要・本文（タイトルを除く）・参考文献はプロポーショナル明朝体、それ以外はプロポーショナルゴシック体とする
* フォントサイズ：このテンプレートに準拠すること
* ポイントシステム：[JIS Z8301:2008](http://kikakurui.com/z8/Z8301-2011-01.html) に準拠し、以下のようにする
	+ 章：1., 2., 3. …
	+ 節：1.1, 1.2, 1.3 …
	+ 項：1.1.1, 1.1.2, 1.1.3 …
* 文体：“…である”調とする
* 句読点：日本語の場合「、」「。」を用いる
* 図表タイトル：図のタイトルは直下に、表のタイトルは直上に配置する。図番号と表番号は、本文全体での通し番号をつける（図１、図２など）

## 原稿の制限枚数

２章で述べたいずれの種類の原稿も、最大１６ページとする。また、著者はページ数に応じた掲載費用を学会に支払う。

# 参考文献

記述内容に直接関連のある文献は，本文における該当箇所に引用を示す。参考文献リストは、[APA (American Psychological Association) Publication Manual](http://www.apastyle.org/manual/) に準拠する。また、本文における参考文献の参照は、同 Manual 3.34節 “Quotation of Sources” に準拠する。本文の最後に記載例を示す。

なお、本学会の掲載原稿はPDF形式で読者が閲覧するため、学術雑誌等に掲載されていないWebページを参照する場合は、本文にそのURLをハイパーリンクで埋め込むこと。

（本文）

LAKやEDMなどの国際会議において、学習記録データの分析がコミュニケーションや協調学習の評価に利用され始めている（Siemens, 2012）。

（参考文献の形式は文末を参照のこと）

# 付録

長い数式の誘導、装置やアルゴリズムについての詳細な説明が必要なときは、参考文献リストの後に付録として記載する。

# その他

* 一般的な外来語のカタカナ表記（ディスプレー、トレーナーなど）については、ここ２０年ほど議論があった。文化庁は1991年に「[外来語の表記](http://kokugo.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/joho/kijun/naikaku/gairai/)」と題し、原則として長音記号を用いて書く原則を示した。一方、エンジニアリングの分野では従来 JIS Z8301に準拠し、語尾の長音記号を省略していた。2008年、一般財団法人 テクニカルコミュニケーター協会は、制作者側・ユーザー側両者の意見を調査し、「[カタカナ表記ガイドライン第２版](http://www.jtca.org/ai_collaboration/katakana_wg/katakana_guide.pdf)」を発行した。（[Z8301](http://kikakurui.com/z8/Z8301-2011-01.html)も2008年に改定された）。原稿記載にあたってはこれらの経緯を参照いただきたい。

# 参考文献

明賀啓太, 佐々木隆志, & 川原稔. (2009). データマイニングによる学習管理システムログからの学習行動と効果の関係導出. 可視化情報学会誌, 29(1), 83-83.

Ferguson, R. (2012). Learning analytics: drivers, developments and challenges. International Journal of Technology Enhanced Learning, 4(5), 304-317.

Siemens, G., & d Baker, R. S. (2012, April). Learning analytics and educational data mining: towards communication and collaboration. In Proceedings of the 2nd international conference on learning analytics and knowledge (pp. 252-254). ACM.

# 著者紹介

著者1

19xx年 ○○大学△△学部卒、19xx年 同大学大学院博士後期課程修了。工学博士。20xx年より××大学準教授、現在に至る。□□の研究開発に従事。▽▽学会、■■学会、各会員．

## 付録A　原稿提出時の形式チェックリスト

□　原稿はA4縦長であり、左右上下マージンは執筆要領に準拠しているか

□　表題、著者名、所属を日英両文で記したか

□　連絡先のeメールアドレスを記したか

□　概要を日英両文で記したか

□　キーワードを５つ程度、日英両文で記したか

□　フォントとフォントサイズは執筆要領に準拠しているか

□　ポイントシステムは執筆要領に準拠しているか

□　文体は“…である”調か

□　日本語の場合、句読点は「、」「。」を用いているか

□　図のタイトルは直下に、表のタイトルは直上に配置しているか

□　章節の番号や図表の番号は逐次的かつ抜けがなく振られているか

□　参考文献リストの記述形式は、APA Publication Manualに準拠しているか

□　参考文献リストは、著者名のアルファベット順に並んでいるか

□　本文において、参考文献は、APA Publication Manualに準拠して参照しているか

□　著者紹介は書かれているか

□　原稿は１６ページを超えていないか

## 付録B　査読報告書フォーマット

この付録Bは、原稿テンプレートとは直接関係ありません。ただし、学会にて受け付けたのち、原稿は匿名の査読者に回覧され、以下の基準で評価されます（執筆要領２章、上記テンプレート１章に記されたものと同一）。これを踏まえて原稿をご執筆ください。

査読報告書

1. 査読管理情報

受付番号：

種別：（原著論文／実践論文／寄稿）

タイトル：

担当エディタ：

担当査読委員：

指定報告日：

2. 論文の評価

(1)総合判定（該当するもの以外を消してください）（再提出論文では (iii) は選択できません）

(i)そのまま採録／ (ii)軽微な修正後掲載／ (iii)照会後再査読／ (iv)不再録

(2)個別評価（５：大変よい 〜 １：全く不適切　の５段階評価）

（種別（原著論文／実践論文／寄稿）によって評価の要不要が異なります。各行の左に頭文字で記します）

原実寄 (a) 関連性：＿

原 (b) 独自性：＿

原実 (c) 有効性：＿

原実寄 (d) 可読性：＿

原実寄 (e) 記述形式の準拠：＿

原実寄 (f) 行動規範への準拠：＿

　実 (g) 速報性：＿

(3) 積極的に評価すべき内容

＿＿＿＿＿

(4) 具体的な問題点

＿＿＿＿＿

(5) 担当エディタや編集委員会へのコメント（著者には回覧されません）

＿＿＿＿＿

3. 著者へのフィードバック文

(1) 「(ii)軽微な修正後掲載」「(iii)照会後再査読」と判定した場合の軽微な修正点

＿＿＿＿＿

(2) 「(iii)照会後再査読」と判定した場合の照会点

（文面を直接著者に送るため、主観的・情緒的な記述は避け、具体的かつ詳細な記述を心がけてください）

＿＿＿＿＿

(3) 「(iv)不再録」と判定した場合の不再録理由

（(5)の注意と同じ）

＿＿＿＿＿

以上